

極早生温州「肥のあかり」の諸特性 からみた収穫適期

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室

担当者：北園邦弥

研究のねらい

極早生温州「肥のあかり」は、既存の品種より熟期が早いため9月下旬からの出荷が予定されているが、産地に導入されて間もないため、品種特性を生かせる収穫適期が不明である。

そこで、収穫期前後の果実形質の変化を調査し、品種特性を生かせる収穫適期を判断する。

研究の成果

1. 「肥のあかり」は、9月中旬から着色を開始し、下旬には1～3分着色となる。その後も着色は進み、10月中旬には8分着色となる(図1)。
2. 果実の浮皮は、9月中はほとんどみられないが、10月上旬以降急増する(図2、図3)。
3. 果実肥大は、9月中旬までの肥大量は大きいですが、下旬以降の肥大量は小さくなる(図5)。果実の階級は、9月上旬までは2S以下の階級割合が30%程度みられるが、下旬以降はSサイズ以上の果実割合が高くなる(図4)。
4. 9月下旬以降、糖度は10以上、クエン酸含量は1g/100ml以下の品質となり、以後も糖度は上昇し、クエン酸は減少する(図6)。
5. 以上のことから、「肥のあかり」の収穫適期は、糖度が10以上、クエン酸が1g/100ml以下となり、着色が1～3分着色となる9月下旬から浮皮の発生が急増する前の10月はじめまでである。

普及上の留意点

1. 本成果は、「豊福早生」に平成14年春に高接した「肥のあかり」に6月下旬からシートマルチを行ったときの結果である。なお、粗摘果は7月上中旬、仕上げ摘果は8月上中旬に実施した。
2. 果実の着果量が少なかったり、樹体へのストレス不足の場合には、糖度が不足したり、着色が遅れたり、浮皮発生が早まる場合がある。

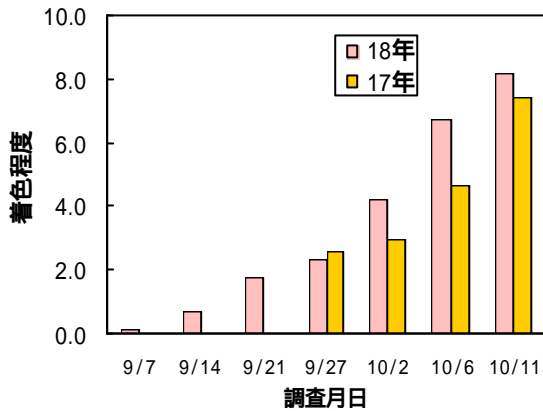


図1 肥のあかりの着色の推移

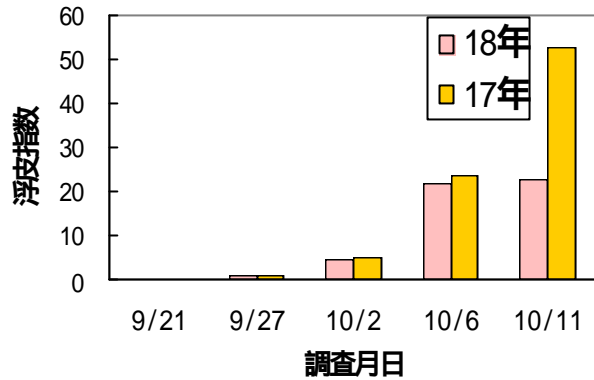


図2 肥のあかりの浮皮指数の推移

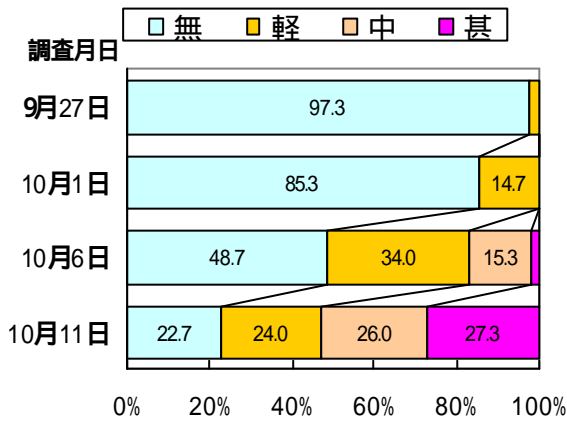


図3 肥のあかりの浮皮程度別割合の推移 (17年)

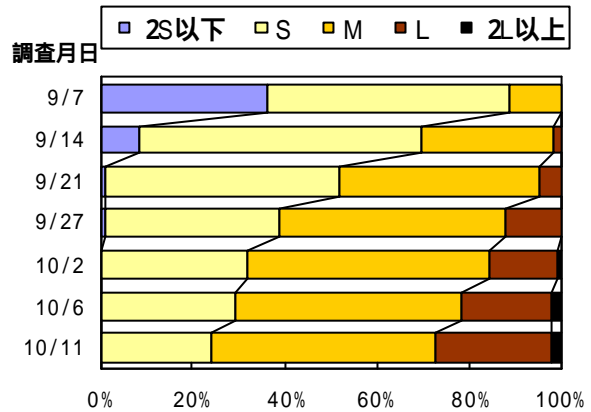


図4 肥のあかりの階級別割合の推移 (18年)

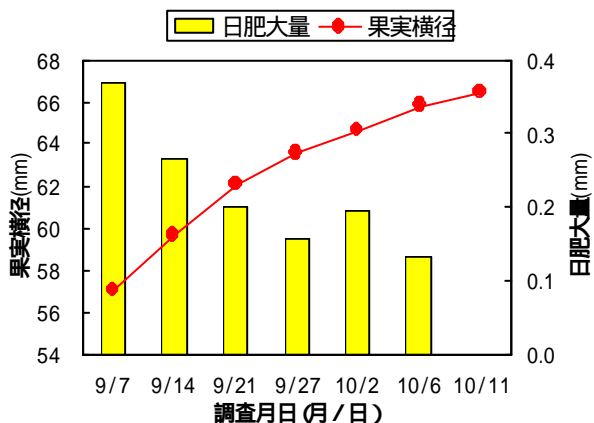


図5 肥のあかりの果実横径と日肥大量の推移 (18年)

注) 日肥大量は次の調査日までの数値を示す

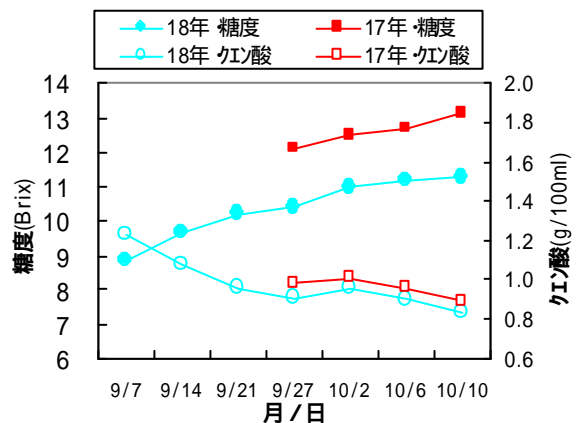


図6 肥のあかりの糖酸の推移

注) 18年は7月26日に2,000倍、8月15日に3,000倍でフィガロン散布